

「ワンデーポート通信」 第258号 2022.2

キャンブルの問題がある人のための
ケアセンター

＜発行＞ 認定 NPO 法人ワンデーポート
〒246-0013 横浜市瀬谷区相沢 4-10-1
クボタハイツ 101

HP <http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>

TEL: 045-303-2621

E-mail oneday.yokohama@knd.biglobe.ne.jp

FAX: 045-303-2629



(港の見える丘公園から)

1月8日、利用者の皆さん4人と、山下公園、みなとみらい付近10kmを走ってきました。空気は冷たかったですが、心地よい時間を過ごすことができました(中村)。

2021年寄付金受領書については1月中に送付いたしました。届いていない方がいましたらワンデーポートまでお知らせいただくと助かります。

【はじめに】

ワンデーポートが設立されて20年以上が経過し、私も20歳以上年を取りました。人間年を取ると多少は鳥瞰的にもものを見ることができるようになると感じています。それは時間という流れを体験することによって得られた、感覚や知識に裏付けられたものと言ってよいかもしれません。そのような目でワンデーポートをめぐるいくつかのことを考えてみたいと思います。

【社会の変化について】

私は今年の秋まで生き抜くと63歳に達することになります。子どものころは、自分が生きている時代がどのように変化してきたかなど考えもしませんでした。しかし、今から思えば、私が小学生だった昭和40年代は、まだ多くは貧しく、カラーテレビがある家も限られていました。家は狭く、専業主婦の母親は、子どもの日常を把握できていました。小さい頃は、近所の家に行って上がり込んでおやつをもらったり、年上の人からいろいろなことを教えてもらったりしていました。放課後は、お金持ちの友達の家を集まって、その子のおもちゃで遊んでいました。今考えるとそれぞれが公平になるような遊び方をしていたように思います。高学年になると、自分たちでローカルルールを作って少ない人数で、野球をやったりしていました。

今はどうでしょう？社会は豊かになり、押しなべて電化製品は各家庭に備えられています。子どもたちはそれぞれの部屋を持ち、小さいころからおもちゃには不自由はしてないように思えます。TVゲームはもちろんのこと、PCやスマホを持つ子どもも少なくありません。すでにインターネットの利用は、国民必須になり学校教育にも取り入れられています。製造業よりもIT企業への就職者が増えていますから、ネット利用を制限することはできないでしょう。

私たちの子どものころは、専業主婦の母親が子どもの行動をそれとなく把握することが可能でした。それはごく自然なことでしたから、監視という感じはありませんでした。しかし、現代社会では、子どもはそれぞれの部屋で何をしているかはわかりません。両親は共働きでそもそも子どもとかわる時間も少なくなっています。PCに向かっていても、調べ物をしているのかゲームをやっているのかはわかりません。

このような子ども時代を過ごして大人になった若者たちは、人とのかわり方が私た

ちとは違っています。デートの時も対話を楽しむのではなく、スマホを観ながら別のことをしているカップルも多い。対話の不足は、他者理解のみならず自己理解が進まなくなると想像されます。そしてそれは感情のセルフコントロールにも影響を与えているのではないのでしょうか？

お金はどうでしょう。私が学生のころ、丸井が後払いのシステムをカードにしました。それまでは、ミシン購入時などの個別の分割払い契約でしたが、カードによって売買ごとの契約の必要はなくなりました。クレジットカードはその後一気に社会に広がりました。金融業者は本来、会社や自営業者の経営のために融資し、利息は会社などの利益から支払ってもらうのが基本でした。それが利益を生まない消費のためにお金を貸す「サラ金」が登場して発展していきました。当時のサラリーマンは、右肩上がりの日本経済の下、給料は毎年上がっていくのが常識でした。そのため、今お金を借りても将来の給料で返済できるということが基本的な考え方でした。

しかし、今はどうでしょう？日本経済は停滞し、給与も上がらない。それどころか雇用も安定していません。そのような社会になっているにもかかわらず、消費者金融どころか銀行までが消費のために個人に無担保でお金を貸し出すようになっています。

このような社会環境の変化の速度が、近年デジタル社会の到来もあいまって加速しているように感じます。そして今、新型コロナ禍により、人間の適応を超えた変化に見舞われているのではないのでしょうか。

【ギャンブルについて】

いま、なぜギャンブル依存症対策が国の政策課題になっているのでしょうか？ギャンブル依存者が急激に増加しているとか、カジノ反対派の主張に応じた施策ということではないでしょう。

『ギャンブリング害～貪欲な業界と政治の欺瞞』レベッカ・キャンシディ著 甲斐理恵子訳 ビジネス教育出版社によりますと、ギャンブルの合法化は世界的な潮流であることが分かります。つまり、これまで法律で禁じられていたギャンブルを、規制改革により合法化していくという社会経済的な流れです。これは、日本だけの話しではなく世界中で進んでいる経済の規制改革の一環であることに留意が必要です。人類は生きるための食物を効率的に得る方法を開発し、直接製造に携わらない人々が、人間の営みに合わせた様々な仕事を編み出し「経済」を構成して通貨により生活を成り立たせています。この壮大な仕組みは、人間の欲望ともあいまって拡大を続けています。人々の労働時間

が短くなり、自由な時間が増加すると余暇産業が拡大することになります。ギャンブル産業も余暇産業の一つですから、今後も拡大の一途をたどることは止めようのない現象だと考えられます。それは前述のように現在の世界の規制改革の状況を冷静に見れば明らかです。

国の政策による規制改革によって、現実的に、ギャンブル産業が拡大し、これによってもたらされる社会的なリスクである「依存問題」についても国を挙げて対策をとるのは当然の責務ということになります。もちろんギャンブル業界は、業界責任として対策を打ち出すべきですし、行政はそれらと協力して依存問題に取り組む必要があるのです。

ギャンブルを社会悪として、位置づけてその存在そのものを批判しているだけでは、社会から取り残されてしまうことにマスコミは理解して取材報道をしてもらいたいと思います。

【病気としてのギャンブル依存症について】

近代社会は、少数の人たちの異常と思える行動については、精神医療に任せられるようになってきました。そこで様々に名称を付けられ「治療」により、行動を修正しようと試みられています。しかし、どれだけそれが成功しているのでしょうか？「うつ」と診断され、10年以上通院を続けながら社会参加に至らない人も少なくありません。そもそも、精神疾患についてはその原因や脳の機能の因果関係など解明されているとは言えない状態です。それであれば、表面化している行動異常という現象のみにとらわれるのではなく、それぞれの人が安心して社会参加できる状況を目指すべきではないのかと思います。

「依存症は病気」ということが言われますが、この言葉のそもそもの意味は、何度も繰り返される問題行為に関して、その原因を本人がだらしがないとかやる気がないとか反省が足りないなどという自己責任にせず人格否定しないことに狙いがあったと思われる。ただし、よく考えてみるとそれをはっきりしない病気に原因があるとするのも無理があるように思います。平常でいられないくらいストレスがかかり、その発散のために逃げ込んだ異常行動が習慣化している、と説明すれば済むことではないかと思います。このように考えれば、繰り返される異常行動の解決には、ストレスの原因（本人のストレス耐性と外部からのストレス）の解明と軽減のための生活環境調整、そして、健康的なストレス解消方法の獲得（別の趣味）と習慣化が効果的であることが理解できます。

「依存症は病気」という前提に立ってしまうと、精神医療での治療という方法に頼ることになり、「うつ」のようにいつもまでも出口のない本当の疾患にされてしまうかもしれません。「依存症は一生治らない病気」とうたうのはそのような事態を想定した極めて無責任なキャッチフレーズのような気がしてしかたがないのです。

少なくとも私の20年以上の経験では、ギャンブル依存問題には多くのケースで解決策が見つかるのです。

【何を考えたいか～まとめに代えて】

これまで、ギャンブル依存問題と変化している現代社会について述べてきました。ギャンブル依存は、依存症という病気がはびこっているわけではなく、ギャンブル業界が業界努力としてののめりこみやすいプログラムを開発したことだけに原因があるわけでもありません。余暇時間が増えたのに、楽しむスキルを身に着けられずに成長し、ストレスを打ちあげたりできるリアルな雑談相手が存在せず、身近な家族の眼も届かない個人主義が孤立を招いていることが従来の家族像を崩壊させていること、さらには複雑化する現代的な金銭管理の方法が確立されていないなどの社会環境の影響を綱領に入れる必要があると思います。

このように社会環境の変化に十分手当されていない生活環境をチェックして考えていくことが、近い将来訪れる仮想空間と仮想通貨の世界に対しても健全な生活を継続できる知恵になっていくのだと考えているのです。

ご報告

2021 年度東京パチンコボランティア基金によるワンデーポート入所初期費用給付金は、上限金額に達したため終了いたしました。今年は6名に合計105万円の給付をいただきました。東京都遊技業協同組合の関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

今年3年目の運用になりますが、1年目に利用されたAさんのご家族から、お礼のメッセージをもらいました。

Aさんのご家族

子の異変に気が付いたのはその当時、長年勤めていた会社でアパート家賃の半額助成の制度が使えなくなり、アパートを出なくてはならなくなった数か月くらい前の頃でした。今から思えば仕事が、心身共にかなりハードでそれでも必死でなんとかこらえて頑張っていたんだと思います。きっとそのストレスから給料日から数日で、あっという間に競馬でお金が消え、でも、なんとか自分なりに考えて競馬で大当たりさせて引越し資金を調達しようと思っていたようです。競馬で大当たり！これしか本人に道はないと、本当に追い詰められていたのだと思います。

息子の様子がおかしいぞ！と思っている、どこに相談して良いのかわからず、情報収集と思い、ネット検索してたどり着いたのが、リカバリーサポート・ネットワークという団体のHPでした。藁にも縋る思いで、すぐに電話をして数日後に開催される個別相談会に予約を取り、相談に行ったのがきっかけでした。それまで、インターネットや本などから必死に得た情報から、息子はきっとギャンブル依存症という病気にかかってしまった！だから早急に治療が必要なんだと思い込んでいました。今となれば、そう思い込むことで母親である自分に折り合いをつけていたんだなあ～と思います。しかしそのリカバリーサポート・ネットワーク対面相談会で専門の相談員の人から話を伺っている中で、特に印象的だったのは、息子と同じようにギャンブルの問題を抱えている人が100人いたとしても、その100人の背景は一人一人違います。だからギャンブルそのものにアプローチするのではなく、そうなった原因に向き合っていくこと、そして生活や仕事の環境を変えたり、行動を変えることでギャンブルを必要としなくなるという考え方があるということでした。この話を伺っていた時に、一瞬にして全身の鳥肌が立ったのを今でも鮮明に覚えています。まさに目から鱗でした。これが本質なんだと心からそう感じ取りました。

その後、その対面相談会がきっかけでワンデーポートと出会い、息子が紆余曲折を経て、

ちょうど一か月後の若葉の季節に、有難いことに東京パチンコボランティア基金の助成金の制度を使わせていただき、ワンデーポートに入所することができました。確か、助成金利用第一号だったような(笑)。約一年半の入所を経て、入所していた頃からお世話になっていたボランティアからはじめた職場に有難いことにそのまま雇用していただき、働いています。みなさんに支えていただきながら、おかげさまでワンデーポートの近所にアパートを借りて一人暮らしをしています。この場をお借りしてリカバリーサポート・ネットワークの皆様、東京パチンコボランティア基金に関わる皆様、ワンデーポートの支援者の皆様、本当に本当に、感謝の気持ちでいっぱいです、ありがとうございました。

AさんとAさんのご家族がはじめてワンデーポートに相談にいらしたのは2019年4月でした。Aさんは、すぐに入所する選択はしませんでした。ただこのとき、東京パチンコボランティア基金によるワンデーポート入所初期費用給付金の運用が決まっています、私は「もし行き詰まったらいつでもワンデーポートに来て良いよ。東京都のパチンコ組合からお金が出るので心配しないでいいから」と伝えました。1ヶ月後に、Aさんは突然ワンデーポートに来て「入所したいです」と言ってきました。

この基金の存在があるお陰で、入所するハードルを下げていると思います。給付金で1ヶ月間入所カリキュラムを受けてもらった後は、家族の負担で継続される人もいれば、生活保護を申請される方もいます。生活保護の申請については、ワンデーポートの寮に入ってからすぐに、というわけにはいかないのが給付金が繋ぎとして大きな力を発揮しています。生活保護の申請窓口でも、パチンコ業界からの給付金があることを驚いていました。

ワンデーポートは、国の制度による障害福祉サービスを使っていませんので、受給者証を取ってくだという面倒な手続きは一切不要です。利用したい人が利用したいときに、しかも経済的負担を強いることなく利用してもらえ制度があるというのは、画期的なことではないかと思います。

(中村)

ワンデーポート利用案内

1. 入所カリキュラム

東京パチンコボランティア基金より、ワンデーポートへの新規利用者(入所者)を対象にした給付金助成制度(1人15万円給付)は終了しました。

(1)生活づくりステージ (1ヵ月～) 内容規則正しい生活とミーティングやスポーツにより健康な生活を取り戻すことを目的とします。

(2)社会参加ステージ(生活づくりステージ修了後6ヶ月～1年)

昼間は仕事(アルバイト)をします。アルバイトで得た収入はワンデーポートに必要な費用にあてるので、ご家族の負担が軽減されます。資格取得の勉強などもできます。

ワンデーポートの寮では、2DK～3LDKのアパートで2人～3人での共同生活となります。

入所費用について

(1)寮費：55,000円/1ヶ月(共益費8,000円込)

(2)利用費：無料

(3)この他に、食費、イベント交通費などの実費が必要で、これらを合計すると約13万円～14万円/1ヶ月の費用がかかります。

(生活保護を受けている場合は、上記とは利用費が異なり生活保護の金額の範囲内で利用が可能です。)

2. 相談支援(無料)

個別にお話をおうかがいして、必要な助言を行います。

3. 通所支援(無料)

通所により、必要な支援を提供します。

4. 利用手続き、問い合わせ

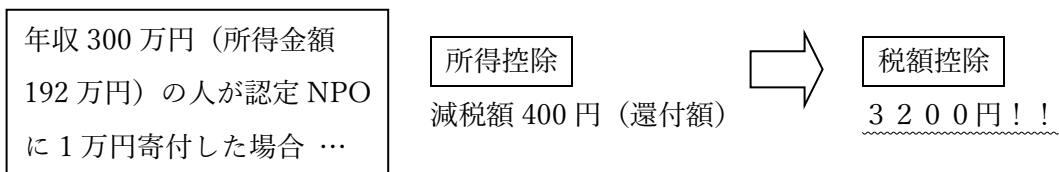
045-303-2621 までお気軽にお問合せください。

寄付のお願い

税制上の優遇について

認定 NPO 法人を取得しているの、個人、法人、相続人がワンデーポートへの寄付をした場合、税制上の優遇が受けられます。所得税、住民税の確定申告の際、ワンデーポートが発行領収書を添付して寄付控除を適用すれば、納税額がある場合には、その納税額を減らすことが可能となります。個人からの寄付の場合、以前は寄付金に応じて所得控除となりましたが、2011 年 6 月に成立した税制改正法案により、認定 NPO 法人への寄付で「税額控除」が可能になりました。

個人からの寄付の場合の所得税における【所得控除】と【税額控除】の比較例



法人からの寄付の場合

認定 NPO 法人へのご寄付は、一般の損金算入限度額とは別枠で損金算入ができます。確定申告でワンデーポートが発行する領収証を添付し、事業年度に支出した寄付金のリストを提出すると、損金算入分は法人税、地方税が課税されません。

損金算入額 = 一般寄付に係わる損金算入限度額 +

認定 NPO に対する寄付金に係わる損金算入限度額

*2011 年 11 月に成立した税制改正法案により、認定 NPO 法人向け特別枠が拡充されました。

領収証の発行については、毎年 1 月末までに前年分の寄付金一覧と領収証を発行いたします。法人については、決算月の関係で、領収書送付時期の変更をご希望の場合はワンデーポートまでご連絡ください。

寄付の振込先

郵便振替口座 00280-0-46026 特定非営利活動法人ワンデーポート

三井住友銀行大和支店 普通口座 1247769 特定非営利活動法人ワンデーポート

銀行にお振込みの方は、電話か FAX かメールで、ご住所をお伝えください。

寄付をいただいた方にはワンデーポート通信をお送りしています。住所変更がございましたらお知らせください。なお、送付停止をご希望の方はご一報くだされば幸いです。

賛助会員は税制上寄付扱いになりますが、正会員の会費については税制優遇の対象になりません。

2021年12月利用者報告

① 利用者数

	男性	女性	合計
継続	39	2	41
新規	1	0	1
合計	40	2	42

② 入所者の年齢

10代	20代	30代	40代
0	4	2	2
50代	60代	70代	合計
0	0	0	8

内

入寮者 8名

家族個別相談のご案内（無料）

毎週金曜日

1回の相談日につき3件受付（10:30～、13:30～、15:30～）

第1金曜日 稲村厚(司法書士) 第2～第5金曜日高澤和彦(精神保健福祉士)

予約は1ヶ月前の午前10時から受付いたします。

コロナ感染拡大を考慮してオンライン相談にも応じています。お気軽にご相談ください。

お問い合わせ TEL 045-303-2621 ワンダーポート

依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会

Zoom 勉強会

今回は3月開催予定です。詳細はHPを確認ください。

【参加費】 無料

【対象】 依存の問題の支援に携わる（携わりたい）方（依存問題を持つ本人、家族向けではありません）

【主催】 依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会

【協力】 認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク

【参加申し込み】 HPから <http://problemgambling.namaste.jp/index.html>